

〔本草和名七〕千歲藥汁蘇敬注云、有得千歲者、莖大如椀。一名纍蕪 一名萸萸藤汁仁諤音纒、下於六反、出蘇敬注。 和名阿末都良、一名止々岐。

〔倭名類聚抄十六〕千歲藥汁アツラ 本草云、千歲藥汁、味甘平無毒、續筋骨、長肌肉、一名纍蕪二音無蘇敬注云、即今之萸萸藤汁是也。豆良、本朝式云、甘葛煎、

〔箋注倭名類聚抄四〕按阿末都良、即甘葛也、即今俗にアマツラといふ物を煎じたる也、飴の

〔東雅十二〕飴アメ略中 アマツラとは即甘葛也、即今俗にアマチャといふ物を煎じたる也、飴の

如きは、今も其製品多けれど、倭名鈔に見えし所は、即今俗に汁飴といふものと見えたり、甘葛煎は聞えす

〔倭訓栞前編二〕あまづら 倭名鈔に千歲藥をよめり、式に甘葛ともかけり、つらはかづらの義なり、大饗にも用ゐらる、事類聚雜要に見ゆ、されど一名萸萸藤なれば甘葛にあらず、是木あまぢ

や、又小がく草ともいふ、土常山なるべし、新撰字鏡に藟をよめり、是草あまぢやをいふにや、蔓あ

まぢやともいふ、甘草藤也といへり、甘葛煎は薰物の方に入もの也、伊勢國より出す事式に見ゆ、

西宮記に引茶甘葛煎とも見えたり、

〔和漢三才圖會九十六〕千歲藥アマツラ 藥蕪、苣瓜、倭名阿末豆良、俗云、甜茶、

本綱、千歲藥蔓、延木上、葉如葡萄而小、四月摘其莖、汁白而味甘、五月開花、七月結實、八月采子、青黑微

赤、冬惟凋葉、春夏間取汁用、

葉甘平 補五臟、益氣、續筋骨、長肌肉、久服不飢、通神明、

按千歲藥代茶煮吃、味甚甘、故俗名甜茶、如小兒多吃、則發蟲、

一種樹生之甘茶、葉似萩而深綠色、似茶而嫩、味甚甘、出於山州宇治田原、

〔重修本草綱目啓蒙十五〕千歲藥 一名萬歲藤 通雅